

子ども一人あたり月額5,000円の習い事助成

一芸が人生を豊かにするまちへ

公約の理念（Why）

一芸は人生を豊かにする。経済的理由で習い事を諦める子どもをゼロにし、地域の学びを未来へつなぐ。

制度構想（How）

施策	登録の位置づけ
日本版DBS（2026年施行）	法的義務（強）
部活動地域移行（2031年目標）	政策的義務（中）
子ども習い事応援事業（市独自）	支援的登録（柔）

概要（要点）

- 日本版DBS：登録が必須。法定の安全確認で信頼を担保。
- 部活動地域移行：自治体登録が前提。学校外でも安全な活動へ。
- 子ども習い事応援事業：登録で公平・透明な助成対象に。

三施策を同時に進める意義
登録情報を共有・統合し、日本版DBSの安全確認を共通基盤として副次活用。
すべての活動が同じ安全水準を持ち、行政効率と市民の安心が両立します。

登録が必要となる理由

- 日本版DBSは「確認対象者登録制」。登録団体に所属しなければ安全確認を受けられない。
- 部活動地域移行は「自治体登録・認定制」。安全な受け皿づくりの基盤となる。
- 習い事応援事業は登録団体を支援対象とし、公平で透明な助成を実現する。

活用と効果（What for）

保護者向けカタログ：目的・費用・実績で比較。安心して選べる。

地域政策データ：不足分野・交通需要を可視化し、施策に反映。

信頼性の可視化：DBS認定マークで安心と信頼が見える化。

結論（Message）

登録制度は「管理」ではなく、子どもの安全と信頼を守る責任ある仕組み。経済支援と地域力を一体にし、すべての子どもに“一芸”を保障するまちを目指す。

登録制度は、安全・経済・地域を結び、子どもたちの未来を支える社会基盤です。